

Appointment and Web-based Communication Division

人事消息 (平成28年12月付)

<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>新任医師 呼吸器内科 平成21年度卒 石川 立 札幌医科大学出身です。旭川には初めての赴任となります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>新任医師 消化器内科 平成23年度卒 太田 勝久 まだまだ不慣れな事も多く、御迷惑をお掛けする事も多いと思いますが、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。</p> </div>	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>平成28年9月30日 糖尿病・内分泌内科 渡邊 淳</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>平成28年9月30日 消化器内科 石井 貴大</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>平成28年9月30日 呼吸器内科 上村 幸二郎</p> </div>
退職者	

理念 赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し質の高い医療を提供します

基本方針

- 1.患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
- 2.急性期医療を中心にして診療を進めます
- 3.救急医療の充実に努めます
- 4.地域の医療機関等との連携を推進します
- 5.国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
- 6.職員の教育、研修を充実させます
- 7.健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちが患者さまの権利を尊重します



旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

- 1.私たちは、来院される方と職員に笑顔で挨拶をします
- 2.私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
- 3.私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
- 4.私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
- 5.私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

(発行)

旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号
tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)
URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email renkei@asahikawa.jrc.or.jp



2017年1月
冬号
-Vol.29-

臨床研修と医療連携
コラム「研修医日記」始めました!!
医療技術部紹介～旭川大雪会～
患者会紹介～旭川大雪会～
地域医療連携室からのお知らせ
新任医師・退任医師のお知らせ

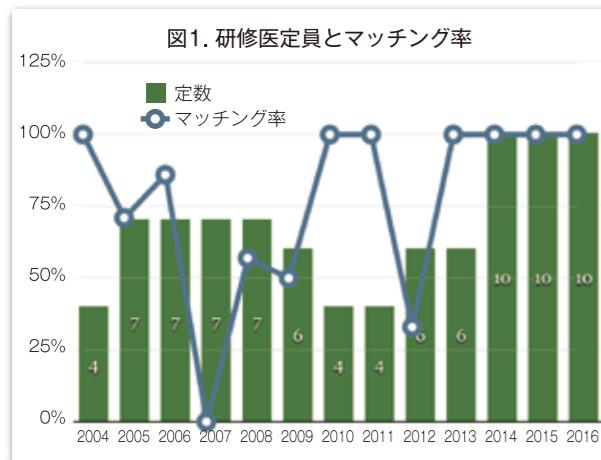


臨床研修と医療連携

日頃より当院の医療連携にご協力頂き感謝しております。今回は医療連携とも関連し、当院が力を入れている『医師初期臨床研修』についてご紹介させて頂きます。



新しい臨床研修制度が2004年4月にスタートし、17年になります。プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的として、2年間の臨床研修が義務化となり、マッチング制度が導入され、学生自身で研修先を選択するようになりました。研修先を自由に選べるようになった結果、研修医の都市部集中が生じました。当院は臨床研修制度開始当初に取り組みが遅れたことは否めません。一時はマッチングゼロと言う危機もありました(図1)。長い低迷時期が続きましたが、2012年に医師のみで無く、看護師、事務、検査部門など院内の全ての職種が集まり、病院全体として研修に力を入れ、研修医を育てる方針を立てました。主な点としては、学生の要望に答えた柔軟なプログラム構成、各職種による指導・評価体制の確立、



専任事務職員の配置、研修医室や宿舎の整備、JCEP(卒後臨床研修評価機構)による研修プログラムの評価受審があります。その結果、2013年以降はフルマッチを続け2014年からは募集定員を10名へ増員しております。また、見学の医学生、受験者数も順調に増加しております(図2)。



当院の臨床研修の特徴としては

- (1)超重症からCommon diseaseまで、豊富な救急症例を経験できること
- (2)2年間を通して救急研修に参加できること
- (3)自由度の高いローテーション
- (4)整備された研修環境



が挙げられます。研修医は上級医の指導のもと、病棟・外来でご紹介頂いた患者さんの診療に携わっています。また、地域医療研修では連携医療機関の先生方にもご協力頂いております。研修体制にはまだ不十分な点も多く、引き続きより良い研修を目指しております。『医師初期臨床研修』を中心とした当院の臨床研修体制について述べました。今回は触れませんでしたが、2017年度より

開始される『医師後期臨床研修(新専門医制度)』へも内科、救急、総合診療の領域では基幹型施設への登録を進めています。『医学生臨床実習』でも各大学のグローバル化と標準化に伴うカリキュラム改変に伴う5年目医学生の長期病院臨床実習への協力体制も整えております。

医学生→初期研修医→後期研修医へと一貫した臨床研修を通じての地域医療への貢献も当院の重要な使命と考えております。連携医の先生、医療機関の皆様のご支援、ご協力が欠かせません。引き続き宜しくお願い致します。



文責／副院長
吉田 一人



「研修医日記」始めました!!

当院は現在21名(医科20名・歯科1名)の初期臨床研修医(以下:研修医)が在籍しております。

本年10月より、毎月1回程度の更新ですが、研修医全員で日々の研修の様子や、行事、プライベートまで様々な内容でご紹介する『研修医日記』ブログを開設いたしました。地域研修などでお世話になりました研修医・これからお世話になる研修医の、日々奮闘し、楽しく研修生活を送っている様子を知っていただけたらと思います。当院ホームページより是非ご覧ください。

(文責:教育研修センター)

The screenshot shows a green-themed blog page for 'Training Physician Diary'. The main content area has a large green banner with the text '研修医日記 始めました!!'. Below the banner, there's a paragraph of text in Japanese. On the left, there's a sidebar with various links related to training physician education and a 'CLICK!' button. At the bottom right, there's a small image of a lavender plant.



医療技術部紹介 〈臨床工学部門〉 Clinical Engineering Center

臨床工学部門の概要

旭川赤十字病院 医療技術部 臨床工学部門は現在スタッフ総数15名の集団です。技師長を筆頭に第一臨床工学課長、第二臨床工学課長、その下に救急外来センター係長、手術センター係長、透析センター係長、MEセンター係長として4本柱を置き、2課4係とし、機能的に責任分担を明確にした上で、若い臨床工学技士は「何でも来い！」と自信を持って言えるゼネラリストを目指し、すべての業務をローテーションしてスキルアップを図る態勢で運営しています。また、病院は24時間365日休み無く動いているため、我々臨床工学技士も当直体制で24時間365日、患者さんと病院のために頑張っています。



業務内容は臨床業務7割、医療機器管理業務3割

臨床工学技士の仕事は大きく分けて患者のベッドサイドで行う臨床業務と医療機器管理業務に別けられます。



臨床業務としては救急外来に搬入された心肺停止の患者に対して行われるPCPS(心肺補助循環)や急性心筋梗塞患者に行うPCI業務などの救急医療をはじめ、人工呼吸療法、心臓カテーテル検査と治療、内視鏡手術など各科手術室関連業務、冠動脈バイパス術や心臓の弁置換術、ICU・CCU・HCU業務、血液透析、急性血液浄化、アフェレーシス、高気圧酸素療法など、当院では呼吸・循環・代謝の分野において臨床工学技士業務のすべてを網羅しており、業務内容は多岐にわたります。これ

らの臨床的な仕事が全体の70%を占めますので、決して機械ばかりを相手にしている仕事ではありません。医師や看護師とチーム医療の一員として安全で質の高い医療を提供できるように頑張っています。



医療安全と感染対策に貢献する

我々臨床工学技士の仕事は、ミスや知識不足が患者さんの生命に直結する責任の重い仕事であることを自覚し、決して妥協することなく常に新しい知識や情報を取り込み、医療安全や感染対策に取り組んでいます。

当院では1,800台以上にも及ぶ医療機器管理も重要な仕事で、すべての管理機器の定期点検、トラブル対応や職員への教育などを行っています。医療機器の安全使用のために臨床工学技士が講師となって行う院内研修会は大小合わせ、年に100回以上開催し、延べ受講者数は1,600人に及びます。



レベルアップを図る

臨床工学技士には、レベルの高い専門的な業務を行うために認定資格がたくさんあります。当院ではスタッフのモチベーションと質の高い医療を提供するために、積極的に認定資格の取得を進めています。

地域救急医療への貢献

また当部門の7名の臨床工学技士が市内、院内におけるBLSやICLSコースのインストラクター(認定は5名)として開催を運営して救急医療に貢献しています。今後は地域連携病院の皆さんへBLS開催のご案内を計画しておりますので、積極的なご参加をお願い致します。私たちは医療人としてBLSをマスターすることは最低限の義務であると考えています。

災害医療への貢献

当部門には日本DMAT認定の臨床工学技士が1名おり、東日本大震災や熊本地震などの活動実績もあり、日本赤十字社職員の使命としていつでも出動できるように準備をしています。また当院の救護班にも臨床工学技士が組み込まれ、日本赤十字社の一員として災害医療に貢献できるように態勢を整えているところです。



ドクターヘリ運航サポート

さらに、当院が基地病院となっている道北ドクターヘリにも生体情報モニターや除細動器人工呼吸器などの生命維持管理装置が搭載されていますのでそれらのサポートも行っています。救急医療の現場では代替できるものがないため、動作しないなどのトラブルが起きないように注意深く管理をしています。

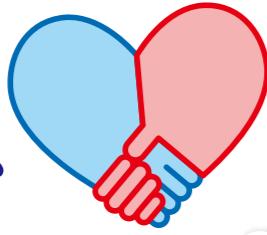
我々の使命

私たちの最大の使命は、当院を選んで頂いた患者さんに最善の医療を提供することです。これからも院内各部門と連携を密にして地域の皆さんに「選ばれる病院」となるように努力を続ける覚悟です。

(文責:医療技術部 臨床工学技師長 脇田 邦彦)

患者会紹介

共に歩む 旭川大雪会



旭川大雪会とは

旭川大雪会(以下、大雪会)は、昭和43年に設立した旭川赤十字病院の糖尿病の患者会です。昭和43年に発足といえば日本糖尿病学会は設立10年目、日本糖尿病協会は昭和36年に結成されてからまだ7年しかたっていないほど早い時期でした。通院中の12人の患者様が集い、糖尿病友の会を結成したのが始まりです。

糖尿病は慢性疾患であり生涯治療を続けなければいけません。また、自己管理による生活習慣の改善により治療効果や予後が大きく変わります。患者会活動を通じてお互いに体験を語り合い、励まし合い、切磋琢磨しながら、患者はもちろん家族ともども糖尿病の研修に参加し、理解を深めることができます。



市民講演会の開催

世界糖尿病デーに先駆けての市民講演会は、10月29日13時より旭川市大雪クリスタルホールで開催致しました。講演1は、糖尿病・内分泌代謝科 副院長 森川秋月先生より「高齢者糖尿病の治療について」と題し、分かりやすく丁寧に御講演して頂き、大雪会の会員の方はもちろん一般の方も大きく頷きながら熱心に聴講していました。講演2は、「糖尿病と歯周病」と題し、歯科口腔外科 副部長 岡田益彦先生より血糖値の管理と歯周病予防の観点から症例を交えて御講演頂きました。歯科衛生士の筒井さんによる歯磨き指導もあり、具体的な内容に患者様より好評をいただきました。糖尿病療養指導士の看護師や検査技師の方々にも血圧・血糖測定でお手伝い頂き、栄養相談も行いました。初雪が降る中でしたが120名の方にご来場いただき、質問が多数発せられる熱気のある講演会となりました。アンケート結果からは、幅広い年代の方が聴講されており、糖尿病患者様とそのご家族だけでなく、糖尿病を予防したいという思いか



旭川大雪会の行事

毎年恒例の行事をあげますと、6月には親睦と糖尿病療養のための研修を目的とした一泊研修旅行会を行います。今年は温根湯温泉・大江本家で6月25、26日に行われました。あいにくの雨でしたが、

奇跡的に雨がやんだ時にはパークゴルフを楽しむ患者様もおられ、また、美白で有名な温泉に何回も入り、みなさんお肌がつやつやに白く輝いていたように思います。初日には森川副院長より「ヘモグロビンA1c」についての講義、食前食後には血糖値の測定と、夕食前には食事の食べ方・アルコールを飲む時の注意点について、翌日には看護師・管理栄養士からそれぞれ「フットケア」「栄養表示の見方」などなどたくさん学んでいただきました。

一泊研修旅行会の他にも、同じく6月にウォーキング、8月にパークゴルフ、10月に旭川大雪会市民講演会、2月にヘルシーバイキング食事会兼新年会、3月には機関誌「大雪」発行などの行事があります。

ら来られた方も多く来られていることがわかりました。新しいデータに基づく講義が聞けるので毎年参加しているという方もいらっしゃいました。



旭川大雪会の今後

大雪会の活動は、今年で48年目となります。私ども管理栄養士は設立当初より事務局としてサポートを行い、糖尿病・内分泌内科の先生方、糖尿病療養指導士をはじめとするコメディカルの皆様のご協力のもと活動しております。長い間には存続の危機もありましたが、なんとか乗り越えてまいりました。

日本糖尿病協会では優良模範会員(満80歳以上、病歴20年以上、日本糖尿病協会の在籍20年以上)の表彰がありますが、大雪会からは恒例となっており、今年は3名の方が受賞致しました。

今後も初代の役員の皆さんや当時の顧問、水上先生、清水先生、中田栄養課長の意思を継承していくながら、ともに楽しく勉強し、参加される患者様の高齢化も含めてサポートできるように尽力して参ります。また、再来年には創立50周年を大雪会会員の皆様とお祝いできますことを願っております。

(文責:医療技術部 栄養課 課長 長瀬まり)



地域医療連携室 からのお知らせ

第18回 旭川赤十字病院医療連携の集い 開催のお知らせ

- 日時／平成29年2月27日(月曜日)18:30
- 会場／旭川グランドホテル
3階 彩雲の間(旭川市6条通9丁目)
- 司会・座長／当院地域連携科部長 國本 雅之

『テーマ』
今おさえておきたい感染症の話題

- 演題1
「国が進める薬剤耐性
(antimicrobial resistance : AMR)
対策アクションプラン」
当院感染管理室室長 堀田 裕
- 演題2
「多剤耐性菌の感染対策」
当院感染管理室副室長 平岡 康子
- 演題3
「敗血症の最新の診かた」
当院麻酔科部長
インフェクションコントロールチーム 小林 嶽
- 演題4
「マイコプラズマ肺炎について」
当院小児科部長
インフェクションコントロールチーム 森田 啓介
- 演題5
「疥癬～最新の治療～」
当院皮膚科部長 木ノ内 基史

講演会終了後、情報交換会を予定しております。
※詳細につきましては旭川赤十字病院
地域医療連携室(Tel:0166-22-8111)
までお問い合わせ下さい。

